

第7期てだこ環境調査団 調査報告

1. てだこ環境調査団の目的

てだこ環境調査は、市民自らが中心となって環境調査を行い、調査地域の環境の理解を深めることを目的としています。また、専門スタッフの指導・支援のもと、市民自らが“環境を見る目”を養うことで、環境保全活動に対する意欲の増進を図ることも期待しています。

2. 第1回環境調査（生きもの観察会）について

○日時・場所

平成30年9月22日（土）10:00～12:00

カーミージー（空寿崎）周辺の海岸

○参加者

19組（小学生及びその保護者）

○調査内容

干潮時に潮間帯に生息する生きものを観察しました。観察のマナーや潮の流れの速い場所、危険な生きものについて学びました。

○調査結果

タイドプール内にて、ニセクロナマコ、タツナミガイ、ウデフリクモヒトデ、ダンダラトラギス、ハリセンボンなど様々な生きものを観察することができました。



写真① ニセクロナマコ



写真② タツナミガイ



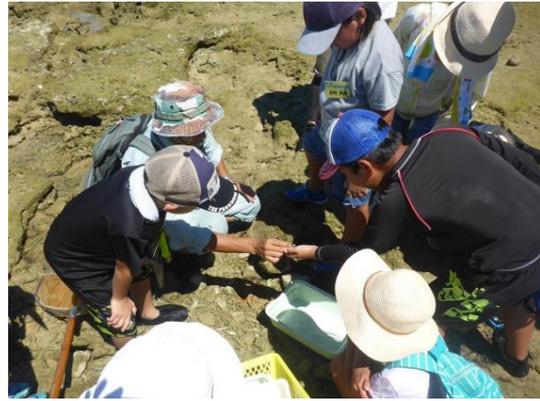
写真③ ウデフリクモヒトデ



写真④ ダンダラトラギス



写真⑤ 観察のマナーと危険な生きものについて



写真⑥ 生きもの観察会の様子

3. 第2回環境調査（漂着ごみ調査）について

○日時・場所

平成30年11月17日（土）10:00～12:00

カーミージー（空寿崎）周辺の海岸

○参加者

11組（小学生及びその保護者）

○調査内容

漂着ごみを自然由来のごみと人工物のごみに分け、人工物のごみの中からペットボトル、容器等を選んでバーコードから生産国を調査しました。なお、本調査を兼ねて、ご参加の皆さまに海岸清掃のごみ拾いをさせていただきました。

○調査結果

カーミージー周辺の砂浜の漂着ごみは、自然由来のごみより人工物のごみの方が圧倒的に多くありました。また、合計56本の空容器類のうち、中国製が46本と全体の82%を占め、他には、日本製3本、台湾製2本、フィリピン・メキシコ・マレーシアが各1本となりました。

国名	本数
中国	46本
日本	3本
台湾	2本
フィリピン	1本
メキシコ	1本
マレーシア	1本
合計	56本



写真⑦ 漂着ごみの収集



写真⑧ 漂着ごみを分別



写真⑨ 人工物のごみ



写真⑩ 容器類の製造国判別作業

4. 集合写真

てだこ環境調査団にご参加いただき、ありがとうございました。



第2回環境調査（漂着ごみ調査） 集合写真